

2月23日(土)

第1会場

17:30~19:30 イブニングセミナー1

一橋講堂

CRT最適化の方法

## 【概要】

CRTは最新のガイドラインに従って植込みを行っても、すべての症例がresponderになるわけではない。Responderになるかどうかは、その定義や評価方法によっても異なる。CRTが十分な効果を発揮しうるかは、適切な患者選択が行われているか、その患者にCRT効果を最大化する手技が行われているか、リモデリングが非可逆的に進行していないか、デバイス設定が最善の状態であるかなどによって複合的に決まるものである。本セッションでは、CRT適応症例を評価するうえでより効果的な方法、簡便かつlogicaなデバイス設定の至適化法に関する2題の講演の後に、より効果的にCRTを行ううえで考慮すべきさまざまな条件をCRTのエキスパートとともに討議する機会としたい。

プログラム  
2月23日  
午後

〔座長〕 茅田 浩 福井大学医学部病態制御医学講座循環器内科学  
須賀 幾 自治医科大学附属さいたま医療センター循環器科

## 基調講演：

## 1. CRT 設定の最適化

自治医科大学附属さいたま医療センター循環器科 ○須賀 幾

## 2. Impact of the esophageal left heart electrogram for cardiac resynchronization therapy

Offenburg University of Applied Sciences, Germany Bruno Ismer

## CRT 最適化に関するパネルディスカッション

## パネリスト

江戸川病院循環器内科 ○慶田 毅彦  
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科循環器内科 ○西井 伸洋  
東北厚生年金病院循環器内科 ○田渕 晴名

共催；平和物産株式会社

2月23日(土)

第4会場

17:20~19:20 イブニングセミナー2

如水会館2階

虚血性心疾患患者と心臓突然死—亜急性期の予防対策と慢性期の予知と予防—

## 【概要】

国内では、年間6万人以上もの心原性院外心肺停止患者が発生していることが知られている。心臓突然死発生の90%以上は徐脈性あるいは頻脈性不整脈によると考えられるが、その原因疾患の詳細は明らかでないものの、虚血性心疾患がその大部分を占めているのではないかと予測されている。デバイス関連冬季大会では毎回心臓突然死シンポジウムを開催し、これまで国内で発生する心臓突然死の実態やその予防のためのICD治療の現状について検討を重ねてきた。今回の心臓突然死シンポジウムでは、虚血性心疾患を原因とする心臓突然死に焦点を絞って討論したい。即ち、1) 虚血性心疾患による亜急性期（発症1ヶ月以内）での致死性不整脈発生の現状と管理、2) 慢性期に発生する致死性不整脈の予知と予防対策、3) 我が国における虚血性心疾患患者でのICD治療の現状や欧米との比較などを取り上げ、現状把握と今後の対策に活かせればと考えている。

〔座長〕 新田 隆 日本医科大学心臓血管外科  
安部 治彦 産業医科大学医学部不整脈先端治療学講座

1. JCDTR登録データから見た日本人の虚血性心疾患に対するICDの意義  
自治医科大学附属病院循環器内科 ○三橋 武司
2. 急性心筋梗塞、亜急性期におけるICDとWearable CDの適応と限界  
近畿大学医学部附属病院心臓血管センター ○栗田 隆志
3. 臨床現場での、虚血性心疾患における致死性不整脈発生の状況と治療  
九州厚生年金病院内科 ○菊池 幹
4. 虚血性心疾患亜急性期における致死性不整脈の検討  
板橋中央総合病院循環器科 ○沼田 哲也
5. 心筋梗塞亜急性期に発症するElectrical Stormの実際  
日本医科大学循環器内科・付属病院集中治療室 ○村田 広茂